

令和7年度 学校評価【計画書】 報加賀市立錦城小学校 校長 吉野 亨

学校教育ビジョン  
「自ら考え、協働できる児童の育成」～自分も人も笑顔になれる学校をみんなで作る～

- ・目指す児童像 自分も人も笑顔になれるために 協働できる子
- ・目指す教師像 児童のやる気を高められる教師
- ・基本方針 学校教育ビジョンの具現化に向け、①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③健やかな体の育成 の取組を組織的な学校運営及び家庭・地域との連携を通して行う。

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	現状の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	2学期に向けての改善策
①教育課程・学習指導	児童一人一人の基礎的な学力をつけるために組織的かつ継続的に推進できる体制づくりを通して、安定的な学力向上のシステムを確立する。	学力向上をめざした持続的な組織体制の強化のために、学校研究との連携を図りながら授業改善を進めるとともに、学力の定着を図るための見取りを作る。	授業づくり・学力向上部 教務主任	昨年度は基礎・基本の定着を図った。組織的・協働的に各部で取組み、おおむね目標は達成できた。さらに子ども力を伸ばすためにステップアップを図る。	【努力指標】 全教職員が授業改善に取り組むとともに、授業での学びを確かなものにする。	国語・社会・算数・理科における単元テストの平均点が A 80%以上である。 B 75%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。	B		学期末に行う「たしかめよう」の全学年平均は、国語85点・算数79点・社会87点・理科79点だった。算数と理科が目標到達率の80%以下であった。そのため、評価はBとした。あと1ポイントでどの教科も、80%に到達するが、今一度一人一人の児童に力をつける指導法を検討していく必要を感じる。「一人一人に確かな基礎学力」を付けるために2学期は児童が、どこでつまづいているのかを担当が把握し、適切に指導する指導体制を工夫する。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	子どもたちが毎日笑顔で生活できる学校を作る。	・全校を巻き込んだ児童会活動の充実を図る。 ・月に1度、教師が児童の良いところを見つけ掲示する「ほめほめweek」を実施し、児童を肯定的に見る取組を行う。 ・週に1度、スマイルトークタイムを実施し、自分の考えを誰とでも気軽に話せることができる友誼関係をつくる。上記の3点を推進することで、いじめの未然防止につなげる。		・昨年度の取組の成果として、教職員が児童を肯定する雰囲気職員全体に広がってきている。今年度も「ほめほめweek」を実施し、この雰囲気を新しい職員にも浸透させていきたい。 ・教師と児童の縦の関係性は好転してきたが、児童同士の横のつながりが薄い現状がある。児童同士が会話を増やす機会を増やし、誰とでも気軽に話せる関係性を築いていく。	【満足度指標】 児童が学校生活を楽しく感じている。	児童生活アンケートで、「学校が楽しい」「どちらかといえば学校が楽しい」と回答する児童の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C・Dの場合は再検討する。毎月、児童にアンケートを実施する。	A		1学期末に行ったアンケートでは、「学校が楽しい」「どちらかといえば学校が楽しい」と回答する児童の割合が90.4%であった。これは、「ほめほめweek」を通して児童を積極的に認める教職員の雰囲気作りが功を奏したと認められる。2学期以降も取組を継続し、児童みんなが認められていると感じ、楽しいと感じられる学校を全職員で作ってきたい。
③キャリア教育・進路	みんなの笑顔のために、働くことや責任を果たすことで、達成感を感じさせたり、仲間と協力する喜びを感じさせたりすることで、自己肯定感を高める。	係活動や委員会では、めあてをもたせ、さらにこまめに活動を振り返る場を設定することで、責任を果たすことや仲間と協力することの大切さを学ばせる。	児童会担当	前年度アンケート結果より、自ら活動等に参加できたと回答した児童の割合が多かった。委員会ごとイベントも充実していた。課題として、他の委員会のイベントにも参加する児童が少なかった。	【成果指標】 みんなの笑顔のために、進んで係活動や委員会に参加する児童が増えてきている。	みんなの笑顔のために、それぞれの活動等に自ら参加できたと感じている児童の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C・Dの場合は再検討する。12学期末に児童にアンケートを実施する。	A		肯定的な回答が低学年は92%、中・高学年は91%だった。しかし、「どちらかといえばできた」と答えた児童が低学年で21%、中・高学年で47%と学年が上がるにつれてその割合が増えている。よって、2学期は児童が一生懸命仕事に取り組む姿を教師側が認め、価値を認め、声かけや生徒指導の「ほめほめweek」と関連付ける等、まずは教師側の児童を見とる意識を高め、児童に還元できるようにしたい。そして、児童が自信をもって「できた」と回答できるようにしたい。
④保健管理	学校生活のあらゆる場面で姿勢を意識させ、成長期に必要な健やかな発達を促すために、正しい姿勢を心がけようとする児童を育成する。	正しい姿勢の保持について、啓発し、適宜指導を行う。また、正しい姿勢を保持するために、体操を鍛える運動等、教育活動全体で取り組む。	保健主事	本校男子児童において、側弯症疑い及び継続観察者が増加している。また、授業中に姿勢の保持が難しい児童がいる。	【成果指標】 正しい姿勢をしようとする児童が増えている。	児童アンケートで「正しい姿勢をしようとする」と答える児童の割合が A 80%以上である。 B 75%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。12学期末に児童にアンケートを実施する。	B		肯定的な回答が低学年は87%、中・高学年では73%であり、全体としては77.6%であった。ほめほめweek等を活用し、学校生活のあらゆる場面でよい姿勢の児童を、全教職員で価値づけたり、学級担任が毎月よい姿勢の児童を1名選出し、校内に掲示する取組を引き続き行って、また2学期によりよい姿勢の児童を表彰する場を設け、姿勢に関する指導を行う。
⑤安全管理	校舎内外における安全教育を計画的に行い、児童自ら、自分の命を守る力が育ち、安全に行動できる児童を育成する。	学校安全教育計画に基づいた指導や避難訓練時の指導を通して、安全に行動できる児童の意識を高める。	教頭	安全教育計画に基づいた指導や訓練を行っているが、振り返りや事後指導が不十分であり、児童の意識の変容について把握できていない。	【成果指標】 自分で自分の命を守ることができる力が付いてきたと実感している児童が増えている。	児童アンケートで、「安全指導や訓練を通して、自分で自分の命を守る行動ができている」と答える児童の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。12学期末に児童にアンケートを実施する。	A		A、B合わせて肯定的な回答が低学年94%、高学年98%であり、学校全体として下校訓練や避難訓練を通して自分の命を守る行動ができてきたと感じている。訓練のマンネリ化を防ぐため、より多様な状況を想定した訓練を行って、2学期は火災、3学期は不審者対応訓練を行う予定である。
⑥特別支援教育	児童一人一人のニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善または克服して児童が笑顔になるために適切な指導や必要な支援を行う。	児童のグロースマインドセットを高めるために、UDLを意識した授業を行うとともに、支援を要する児童の困りに応じた指導を工夫する。ICTを活用したUDLを進める。	特別支援教育コーディネーター	児童の困り感を早期に捉え、気づきから実態把握している。支援委員会を開き、方針の決定・共通理解を促してきた。担任は学期ごとに計画評価し、支援に取り組んできている。	【満足度指標】 困り感のある児童も含めて児童が「やれなかった」と感じている児童が増えている。	UDLの実践、困り感のある児童への特性に応じた支援計画と改善により児童の困り感が軽減されることが増えたと答えた児童の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C・Dの場合は再検討する。12学期末に児童にアンケートを実施する。	A		AとBを合わせた肯定的な回答は94%であった。子どもの状況に応じた関わりや一人ひとりの学びにおいて付けた力がついたときの承認を大切にすることで、よりBからA回答へとまた、OD回答の児童が「できた」という思いが持てるようにしたい。今後も、準備や一人一人の困り感の把握・支援を行い、変容を見守っていく。
⑦組織運営・業務改善	教職員が笑顔で子どもと向き合い、教材研究や研修の時間を確保し、自ら考え協働できる自律した学びを育成することに注力することを旨とする。	主任層と連携し、チームとして組織化・協働化された学校運営を行い、仕事の平準化、業務の削減を図り、教材研究や研修の時間を確保し、教職員が笑顔で子どもと向き合う時間を増やす。	教頭	主任層が連携し、チームとして組織化・協働化することの大切さや、仕事の平準化、業務の削減など意識している職員が増えている。	【満足度指標】 自ら考え協働できる自律した学びを育成している職員が増えている。	教材研究や研修の時間を確保できていると感じている職員が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。12学期末に教職員にアンケートを実施する。	B		A、B合わせて肯定的な回答は80%であった。学校教育ビジョンの実現に向けて各教職員がワークライフバランスを大切にしながら、研修や教材研究の時間を確保し、主体的な学びにつながる授業改善を図る必要がある。【意識改革】木曜日定時退庁日【日課調整】計画的なスマイル教材研究の充実【環境設定】職員室置換えによる日々のコミュニケーションの活性化(学年を超えた教材研究、児童の情報共有)
⑧研究	自律した学び手の育成に向けて、自己調整力を高めた「ふり返し」を書かせるための効果的な手立てを検討する。	・研究全体会を定期的に関き、各教諭の実践を交流する中で、より良い実践を研究していく。 ・研究主任を中心に実践を共有していくことで、学校全体で研究を推進していく風土を醸成していく。	授業づくり・学力向上部 研究主任 若プロ担当	子どもに委ねる時間が授業の中で増えてきている。だが「自分の考えや、仕事の平準化、業務の削減など意識している職員が増えている」という児童アンケートでは、肯定的な回答をしている児童数が11項目で最も少なかった(81%)。	【努力指標】 共通理解のもと授業改善に取り組んだと感じている職員が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	共通理解のもと授業改善に取り組んだと感じている職員が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。12学期末に教職員にアンケートを実施する。	B (肯定的な回答が80%)		全職員で自律した学びを育成するため、2学期以降は以下の取組を行う。 ①2学期に1回ずつ、全学年で単元別自由進度学習に取り組む。そのために、自由進度学習の方法について、全職員対象に校内研修を実施する。 ②「スマイル教材研究の日」に教材研究する際、「ホップ・ステップ・ジャンプ」の3コースについて授業者が準備することを、1学期から継続して行う。 ③「自己選択・自己評価・自己評価」の3つについて、学級担任が毎月学級目標を設定する。 ④良いふり返りの提示を、学級担任が毎月学級児童1名選出して提示する。 ⑤良いふり返りを価値づける付箋コメントを、全職員が毎月張り出す。
⑨保護者、地域との連携	PTA行事や錦城キッズフェスタを通して、家庭・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを目指す。	計画的に地域・保護者と連携を図りながら、PTA行事や錦城キッズフェスタを行う。	教頭	地域・保護者と連携を図りながら、PTA行事や錦城キッズフェスタを計画する。	【満足度指標】 PTA活動や錦城キッズフェスタを通して、開かれた学校となり、家庭・地域と連携している。	保護者アンケートで、「PTA行事や錦城キッズフェスタを通して、学校・家庭・地域と連携を図ることができている」と回答した保護者の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。12学期末に保護者アンケートを実施する。	B		A、B合わせて肯定的な回答は86%であった。2学期は「愛校作業」「錦城キッズフェスタ」を通して、学校と地域保護者が学校生活以外でつながる場とらえ、学校への親しみや関心を高められるよう企画・運営していく。
⑩教育環境整備	学習に必要な教材や学習環境を整備を図る。	職員作業を通して学習環境・教材整備に努める。	総務部 予算委員会	教材・教員の使い方や整理が不十分な状況が見られる。	【満足度指標】 教材や教員の管理や整理整頓がされている。	教職員アンケートで、「教材・教員の管理や環境整備に努める」ができた」と回答した割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。12学期末に教職員にアンケートを実施する。	A		A、B合わせて肯定的な回答は100%だった。2学期は清掃委員会とも連携し、子どもも教職員も「スマイル4S」を目指す活動に取り組む。1s(整理:必要なものと不要なものに分けて、不要なものを処分する)2s(整頓:必要な時に必要なものをすぐに取り出せるように配置する)3s(清掃:身の回りをきれいにし、ゴミや汚れを取り除く)4s(清潔:整理、整頓、清掃を繰り返し、快適な状態を維持する)。児童とも共有を図る場を設定し、みんなの学校、みんなが笑顔になれる学校を教育環境整備面からも推進していく。

学校関係者評価

- ・①学習指導において、子どもたち一人ひとりとA1:K17に授業を通して力を付けてほしい。学びの空間を十分活用して授業を行ってほしい。
- ・④保健管理において子どもたちの姿勢の悪さが気になる。体幹を鍛える体操やストレッチを行うなど工夫をして、子どもたち自身が正しい姿勢を意識できるような取組を行ってほしい。
- ・⑩錦城小の環境を整えるのは大変いい。廃棄物処理を行う際は、錦城小の歴史に関するものは永久的に残すよう気を付けてほしい。